



山野草の鉢植えに見入る来場者

下妻市自然愛護協会が主催する「秋の山野草展」が、小貝川ふれあい公園ネイチャーセンターの展示室で開催されました。

黄色い花をつける秋の七草・オミナエシや細い茎に青紫色で釣鐘形の花をぶら下げるイワシャジンなど秋を彩る山野草の鉢植え約400鉢が来場者を魅了しました。

自宅の庭で山野草を育てているという、つくば市から来場した50代女性は「山野草はかわいい花をつける。派手さはないが可憐な感じが見ていて落ち着ける。展示には珍しい種類もあって参考になる」とざらりと並ぶ鉢植えに感心していました。



道路沿いのごみを拾うシルバー人材センターの会員

市民の憩いの場となっている砂沼広域公園の砂沼サンビーチ周辺で、下妻地方広域シルバー人材センターの清掃ボランティア活動が行われました。早朝から同センターの会員22人が集まり、道路沿いのごみなどを拾い集めました。

シルバー人材センターは、豊富な経験・知識・技能を持った高齢者が働くことを通じて生きがいを得るとともに、地域社会の活性化に貢献する組織です。

同センターのボランティア委員会で副委員長を務める関日出男さんからは「地域に貢献しようと年2回、奉仕活動をしている。秋のイベントで下妻を訪れる人が多くなるので、きれいなまちで迎えたい」と話が聞けました。

# まちのわだい

Town Topics

秋の山野草展  
9月23～25日



10月16日



市民の憩いの場をきれいに  
下妻地方広域シルバー人材センター  
「清掃ボランティア」  
10月12日

「来春も立派な花を咲かせたい」と、鬼怒フラワーライン（鬼怒川大形橋上流左岸河川敷）を管理運営する花と一万人の会の会員をはじめ、青龍楽校少年団や地域住民など約120人が、同河川敷の花畠でポピーの種まきに汗を流しました。

花畠4,400m<sup>2</sup>にまいた種は、シャーレーポピーとカリフォルニアポピーの2種類で50万本分。市内皆葉の猪瀬洋さんは、娘の夏美さん（小3）と親子2人で参加。スプーンを使って丁寧に種をまきながら、「自分の手でまた種がきれいな花を咲かせるとと思うと開花が待ち遠しい」と話していました。

種まきの後には、同河川敷のごみ拾いとポピーの刈り取り後の6月に定植したさつまいもの収穫も行われました。収穫されたさつまいもの一部は、その場でもみ殻を使って焼いて調理。温かい豚汁と一緒にふるまわれ、参加者は舌鼓を打って味わっていました。

## 平成30年4月開校を目指して「下妻中学校校舎改築工事起工式」

市は10月15日、「下妻中学校校舎改築工事起工式」を同校第一体育館で行いました。市長、市議会議長、県議会議員、地元自治区長、PTA、工事関係者など約80人が出席し、工事の安全を祈願しました。

同校の現校舎は、建築後40年以上が経過し老朽化が著しく、耐震性の確保も課題となっていました。市では平成25年8月に府内ワーキングチームを設置し、建設地など含む検討を開始。平成26年5月には下妻中学校建設委員会を設立し、基本計画から実施設計まで約2年をかけ、市内の各界各層から意見・要望などを聴取しながら事業を進めてきました。

式典で稻葉市長は「新しくできた下妻中学校が、生徒からも、地域の皆さんからも『すばらしい学校』だと言われるような学校を建設し、学校教育の発展に寄与できるものと確信している」とあいさつし、工事関係者に



多目的に利用できる昇降口前の大屋根（外観イメージ）

は工事期間中の安全施工を呼び掛けました。

今後は、既存校舎を使用しながらの工事となるため、生徒や教職員をはじめ学校利用者の安全面に配慮し、平成30年4月の開校を目指していきます。



新校舎を模型で確認する起工式の出席者たち（下妻中学校第一体育館で）



開放的な空間と生徒が集う昇降口正面の大階段（内観イメージ）

温かい善意ありがとうございます

## 結城信用金庫から車椅子2台寄贈

結城信用金庫の森光郎理事長が9月28日、市役所本庁舎を訪れ、市長公室で車椅子2台の寄贈式が行われました。

森理事長は「毎年6月15日の信用金庫の日にちなみ、地域貢献活動の一環として愛の募金活動を行い、障害のある方や体の不自由な方への支援を目的に営業地域の市町へ車椅子などを寄贈しています。今年は下妻市で有効に利用していただければ」と語り、稻葉市長に車椅子を手渡しました。

稻葉市長は「ノーマライゼーションを推進する上で大変ありがたい。早く、市内の公共施設に配置し、市民に有効利用されるようにしていきたい」と感謝の言葉を述べました。



森理事長（左）から稻葉市長（右）に車椅子2台が手渡されました

有料広告欄